労災かわらばん 2012 －初冬号－

Vol.35　発行日／平成24年10月31日　編集／釧路労災病院新聞局

第2回 高校生医療福祉体験セミナー in くしろ地域

総務課長　西井　淳

7月29日(日)釧路労災病院で第2回目の高校生の現場体験セミナーが開催されました。釧路労災病院と北海道移植医療推進協議会釧根支部の共催で地区の高校生に医療現場を知ってもらい今後の進路選択やくしろ地域の医療の担い手の必要性を知ってもらうこと、そして移植医療の周知が目的です。最初に宮城島拓人副院長よりくしろ地域の医療状況と基幹病院としての釧路労災の役割について、続いて札幌のほしい小児科・整形外科星井桜子副院長より移植医療についての講演がありました。

そしていよいよ現場体験です。体験内容は全部で10項目、労災病院職員の他、釧路の未来を考える会、青年会議所他各ボランティア団体の皆様のご協力により、内視鏡操作、外科縫合、吸引口腔ケア、生理・血液検査、CT・MRI、リハビリ模擬、人工呼吸器・AED、調剤・無菌室体験、脳死判定、移植コーディネーターと多岐にわたる体験メニューを高校生に提供することができました。高校生は市内及び根室地区から112人が参加し、1時間30分の中で、決められた3つを体験しました。限られた時間の中で多くの高校生に医療を感じてもらうべく、各部署の職員総出で体験をサポートしました。

表情を輝かせながら内視鏡機器の操作をする高校生、おっかなびっくり電気メスをにぎり鶏肉を切っていく高校生…。未来を担う高校生が刺激を受け、自分自身のこれからを考える、いいきっかけになったと自負しています。併せて高校生に手取り足とり教える私たちにも、いい刺激になったのではないかと思います。

体験終了後にグループ毎にディスカッションを行いました。高校生たちが感じたことや、今後の目標、医療従事者の先輩に聞きたいことなど積極的な意見交換が行われました。

この体験は継続して生きていく事業だと考えています。くしろ地域の今後を考えたときに、労災病院だけでなく、市立・日赤・その他市内病院で協力しあいながら今後も続けていくことが大事です。

医療の道を志す高校生が増え、ひいては地域に必要とされる医療機関の充実が図られることにより、患者の皆様に貢献したいと思っています。

『体験セミナーアンケート』寄せられた高校生の声

リハビリでは、車いすの操作が難しかったことがとても印象に残っています。救急救命では、電気でお肉を切ったり、血液がきれいになったり、色々な機械に触れられてよかったです。

最初に聞いた地域医療についての講演と、人形にした注射が印象に残った。

体験したことの全部が面白くて、勉強になりました。*AED*の講習は私の地域で受けられるなら、受けてみたいです。説明して下さった方々が気さくで面白い人ばっかりだったので、質問とかもしやすくて、とても楽しかったです。お年寄りが大先輩というのを絶対忘れないようにしたいです。

今回のセミナーで色々なことを詳しく知れたのでとても良い勉強になりました。セミナーの時間は、あっという間にすぎてしまったので、もっと長くてもよかったなと思いました。

脳死のことについてくわしい事が知れた。看護体験が楽しかったし勉強になった。

鶏肉を電気メスで切ったのが楽しかった。色んな変わった機械を見ることができたから参加できてよかったです。

今回のセミナーに参加した事によってもっと医療を知りたくなったし、はやく看護師として病院で働きたいと思いました。

外科体験。実際にお医者さんが使う器具を操ったのでとても緊張しました。
でも、味わうことができてとても嬉しかったです。

看護師になりたい気持ちがいっそう強くなりました。また、色んな所に回れたので、放射線技師の仕事やリハビリの仕事にも興味を持ちました。何年後か看護師になってたくさんの患者さんを助けたいです。勉強を頑張ります。

採血の体験が、ふだんできないことにふれることができて良い体験になりました。本物の人間でやるのと人形では全然ちがうのかもしれないけど、思ったよりできて嬉しかったです。

このセミナーを通してより看護師になりたいという気持ちが強くなりました。

実習全て！ですが特に残ったことは松葉杖と車イス体験です。今元気な体で体験しても大変でしたが、ケガしている人が使うので本当に患者さんは辛いと思いました。

よりいっそう、医師になりたいと思う気持ちが強まった。内科以外の科にも興味がわいた。

自分は将来看護師を目指していましたが、今日の体験を経て検査技師や、医師という職業にも興味が沸いて、将来の選択が広まりました。

今回の体験で自分の進路にまた新たな道ができたので、自分の中では素晴らしい体験になりました。ありがとうございました。